GTEC通信 vol.98

確かな学力の向上に向けて
学校生活すべてを学びの場として洗練する

新潟県立国際情報高等学校

1992（平成4）年に開校。国際化・情報化が進展する社会の中心となって活躍できる人間の育成を目指し、国際文化科、情報科学科を設置する。両科ともに２学級80人という小規模な学校の特性を生かし、２人担任制や習熟度別少人数授業などによる丁寧な指導で、生徒の人間的成長や希望進路の実現を図っている。また、2013（平成25）年度に「海外大進学コース」を開設し、海外の大学に直接進学する生徒を支援、さらに、2015（平成27）年度にスーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）に指定され、「【雪国*米どころ*魚沼】の世界発信を通じた人材育成 ～ 浦佐から世界へ～」というテーマで、地域が抱える課題、更には関連する世界の地域課題について、グローバルな視点から考察・提案できる人材の育成を目指している。

基本情報：公立、共学、国際文化科・情報科学科
規模：１学年約160名
主な進路：東京大１名、大阪大１名、名古屋大１名、北海道大２名、東北大３名、新潟大22名など国公立大101名
（2015年度入試）

取り組みのポイント

●指導要領の変化を踏まえ、生徒の意欲を引き出しつつ英語４技能をバランス良く育成する指導改革を実践。
●CAN-DOリストをもとに３年間の育成プランを明確化し、各学年のスモールステップを教師と生徒で共有。
●活用力の育成に向けて、学校教育全体のマネジメント改革を推進。

取り組みの背景

同校は、開校以来「授業第一主義」をモットーに、教師が一丸となって生徒の学力を高め、希望進路の実現を果たしてきた。一方で、国主導での大学入試、高校教育改革の議論の中では、知識・技能に加え、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性など、育むべき力が変化しつつある。進路指導主事の山﨑健太先生は、「求められる力が変化する中で、地方部の公立高校としては、学校が持つ人的・財政的・資源的な要素を考慮しつつ、20年先の学校、卒業生、地域をデザインできるような教育改革を意識しています」と問題意識を語る。

また、英語科の及川智弘先生は、「英語については、2013年度からの新課程で４技能の育成が重視され、求められる力が変わりました。既に大学入試問題でも運用力を重視する方向に徐々に変化しており、こうした求められる力の変化にどう対応するかを英語科で議論しました」と説明する。新課程移行と時を同じくして、「海外大進学コース」が同校に新設されることもあり、その１期生が入学する2013年度から英語科を中心に指導改革に踏み切った。

トピックの内容に興味・関心を持たせて英語を使いたくなる状況を作る

同校が英語の授業に取り入れたのは、ＣＬＩＬ（クリル：Content and Language Integrated Learning、内容言語統合型学習）という教育法だ。言語学習を「内容」と深く結び付けるのが特徴で、授業ではトピックの表面的な理解に留まらず、じっくりと背景知識を学んだり、日本国内や身の回りの事象と結び付けて考えたりして、トピックへの興味・関心を高めることで、実践的・応用的に英語を運用させることを狙う。英語のために英語を学習するのではなく、トピックについて、知りたい・伝えたいといった気持ちを起こさせ、英語を読んだり話したりしたくなる状況をつくるのである。例えば、「世界の水不足問題」をテーマとしたトピックがあるとする。授業では、冒頭から教科書を読み進めるのではなく、イントロダクションとして水不足問題の原因を考え、遠い世界のできごとではなく、自分たちにも関連のある問題と意識させた上で、トピックの内容に入る。

１テーマにつき１か月ほどかけてじっくりと学び、その中に４技能のトレーニングをバランスよく組み込んでいることも特徴だ（資料１）。授業では、関連動画を視聴したり、テーマについてディスカッションやプレゼンテーション、ライティングをしたり、各テーマのゴールイメージに沿って活動を定めている。従来の授業に比べて進度は遅いが、教科書本文の原典を読み込むなど、生徒が読む英文の量は増えるという。

こうした授業は、教師の緻密な準備を要することは言うまでもない。年度当初に教科書の中で扱うレッスンや順番を定め、各テーマの狙いを共有する。１年生の初めは、「グローバルに考えるためには、まず日本について知る必要がある」という考えから、日本文化をテーマとし、その後、世界に目を向けて環境や国際、紛争といった問題を扱う。各テーマの展開案は、英語科教師がアイデアを出し合って作り上げる。「生徒の興味・関心を高める展開を検討したり、テーマに関するリサーチをしたりする必要があるので、１か月ほど前から準備を進めます」（及川先生）。

各教師は授業の大きな流れやゴールイメージ、また授業で用いるプリントを共有している。文法学習についても、内容によりトピックの中で取り上げるか、また別途ドリル的に学習するかを共有して指導している。

CAN-DOリストをもとに３年間の育成プランを共有

CAN-DOリストを作成し、３年間の育成プランを明確化していることにも注目したい（資料２）。３年生の目標は、３年間で学習したトピックの中から１つを選んでリサーチし、自分の考えをまとめる「卒論」を書けるようになることだ。その前提として、２年生で自立的学習者（independent learner）になることを目標に掲げている。そのために、例えば２年生の英語日記指導では、教師は誤りを細かく指摘するが、正答は教えず、自分で辞書や文法書で調べ直して再提出するように求める。「自立的学習者には、自分が足りない点に気づいて学び直す姿勢が不可欠であり、そのためのトレーニングの１つと位置づけています」（及川先生）。

また、２年生では論理的思考力や批判的思考力の育成に向け、英語ディベートの指導にも力を入れる。

一方、１年生は前段階として、「Fluency」をキーワードとして、自分の考えを臆せずに英語で発信する力の育成に重点を置く。例えば、毎週のエッセイライティングでは文法や単語のつづりなどの誤りは指摘せず、とにかくアウトプットすることが大切というメッセージを伝える。

こうした各学年の重点ポイントをCAN-DOリストに落とし込んでおり、そこから逆算する形で、各学年、各時期に求められる力が明らかにされ、教師はもちろん、生徒とも共有して目標意識を高めている。

４技能のバランスを意識し定期考査は技能ごとに実施

４技能のバランス良い伸長を目指し、定期考査は技能別に実施するのも特徴だ。例えば１年生は、「コミュニケーション英語Ⅰ」でリーディングとリスニング、「英語表現Ⅰ」でライティングとスピーキングの試験を実施する。また英語表現Ⅰでは、英語の運用に不可欠な「Vocabulary（語彙）」「Grammar（文法）」の２分野の試験も行う。なお、スピーキングテストでは１人１台支給されているＩＣレコーダーに録音する形式で評価する。

その他、授業への興味・関心、英語学習への意欲などはアンケートを通して把握し、実践的な英語力のレベルはＧＴＥＣを用いて確認している。

特別プログラムで海外大学進学希望者を支援

同校は、2013年度に「海外大進学コース」を開設し、海外大学進学希望者を支援している。希望者10名ほどが対象で、２年生進学時に英語テストや成績などを総合して選抜する。

１年生の時点でコース選択希望者は、10月にボストンへの海外研修を行い、現地の雰囲気を体感して将来へのイメージをふくらませる。そして２

年生では、「グローバルスタディーズ」という学校設定科目の中で、英語によるディベートやディスカッション、プレゼンテーションなどの指導を通じ、問題発見から解決までのプロセスを論理的に考え、発信するトレーニングを重ねる。

コースを選択しない生徒も、１年生３月にアメリカもしくはオーストラリアへの海外研修を実施する。希望者が対象で、例年100名ほどが参加する。「保護者から大事に育てられてきて、学校でも手厚くフォローされている生徒たちが、外の世界に出ることは受身の姿勢から脱し、自立するための大きなきっかけとなります」（山﨑先生）。

教科の活用力の育成を学校教育全体で捉える

上述したように、同校は2013年度より英語の授業を大きく変化させた。また英語以外の教科についても、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」（以下新テスト）を始めとした入試改革や教育改革への対応に向けて、対応を模索している。「最初の新テストを受験することになる学年の生徒が中学３年生となる２年後までに、学校として対応ができるように組織づくりも含めて準備を進めています」（山﨑先生）。

一方で、山﨑先生は「活用力育成の中で謳われているアクティブ・ラーニング（以下ＡＬ）は、授業という枠内で完結させるものではなく、学校教育全体で捉えるべきだと思います。学校が関わる活動すべてをカリキュラムと捉え、これをいかにマネジメントするかという視点が大切だと考えています」と語る（図１）。

例えば、ＡＬを通した教科の活用力育成については、土曜補習の中で担当者が独自に工夫してＡＬの要素を取り入れているという。「生徒の利益を考えると、授業は失敗が許されません。そこで、土曜補習という正課以外の時間を使って、講義に加えて生徒主体の活動を授業の中に取り入れています」（山﨑先生）。また、学習環境の整備として、自習室はこれまで黙々と学習を進める場所とし、生徒間で話すことは禁止していたが、協働して課題を解決する場の必要性を踏まえ、今年度から生徒同士が自由に話し合いながら学習できる別の自習室を設置した。

毎年各教科で行っている入試問題分析にも新たな観点を取り入れた。「１つの大問に複数分野を融合させているような問題をピックアップして分析し、少しずつ生徒に解かせていきます。こうした研究を重ねておけば、合教科型・総合型問題の行方の予想に役立つとともに、方向性が明らかになった時の対応がスピーディになるはずです」（山﨑先生）。

2015年度にモニター受験する「高校総合学力調査」の問題分析も、新テストに向けた研究の一環と位置付けている。「生徒に新しいタイプの問題に触れさせることで、現行の指導が新テストで求められる『活用力』にどれくらい対応できるかという現状を把握したいと考えています。受験する生徒にとっても学習への意識を見直すきっかけになればと期待しています」（山﨑先生）。

こうした教科の活用力の育成に向けた準備に加え、探究学習で求められる「課題設定」のためには生徒が社会的な課題に関心を持つ必要があると考えている。「これからの学びを考えると、自ら課題を設定する力が欠かせませんが、そのためには社会の課題に目を向ける必要があります。生徒はインターネットなどさまざまな情報収集ツールを手にしていますが、社会の課題を捉える上で十分に活用できているとは言えないでしょう。ＳＧＨに指定されたことを機に、今まで以上に生徒の視野を広げていきたいと考えています。また、視野を広げることで、子どもの内向き志向を突破するきっかけにもなればと考えています」（山﨑先生）。その一環として、新聞や社会問題のキーワードに関するエッセイを国語科教師が選び、要約などの週末課題を課している。さらに、入試改革でより重要視される志望理由書や小論文への対応も見据え、国語科教師と協働し、３年間を通した小論文指導の体系化を検討している。「小論文指導は、これまで２年冬に志望理由書を書かせますが、それ以降は入試直前期の該当する生徒に対する個別指導が中心で、体系だった指導ができていませんでした。まだ道半ばですが、あと２年間で体系化したいと思います」（山﨑先生）。

取り組みの成果と今後に向けて

同校のＧＴＥＣスコアを見ると、授業改革を始めた学年の２年次終了時点でのスコアは、過去の学年を大幅に上回る結果となった。特にリスニングは平均グレードが６（最高は７）となり、改革の成果が確認された（資料３）。

一方で、活用力育成に向けた学校全体の指導改革は２年後を見据えてさらに広げていく。特に人間力を高める意味で、同校が注目しているのが部活動と学校行事の改革だ。

まず、部活動については、同校ではこれまで土曜・日曜は部活動を禁止していたが、進路指導部の発案により、今年度より土曜・日曜のどちらかは半日を部活動に充て、残りの時間を学校で学習するという形にした。「思い切り体を動かしたり、文化的な活動に取り組んだりすることで視野は広がりますし、仲間と協力して頑張る経験もグローバル社会を生きていく上で大切です。勉強だけで

も、部活動だけでもなく、２つのことができる生徒を育てていきたいと考えています」（山﨑先生）。さらに、学校行事についても意義の再定義を始める。「行事を通じた人間力向上のために、各行事を形式的なものにせず、行事の目的、行事を通じて伸ばしたい力、伸ばした力をどう次につなげるかを整理し、教師間で意義を再確認するとともに、意義の薄い行事は見直すことを進路指導部から発案しています」（山﨑先生）。

授業改善と並行し、学校生活全体を通して人間力を高めることが、結果的に入試改革で求められる力の育成につながると考えている。同校は、今後も学校生活全体を通して、生徒の人間的な成長を促していく。

国際情報高校英語科先生

山﨑健太先生

【資料１】英語授業プリント（一部抜粋）

Lesson 10 Life in a Jar (Training Task Sheet)

Can-Do(ことばの到達目標)

Topic	Section Target	Prepared Speaking	Impromptu Speaking	Writing	Listening	Reading
History	世界的な歴史の一部を通して、歴史を学ぶことの意義を考える	聞き手にとって新情報となる具体例を分かりやすくスピーチで伝えることができる。[授業]	教科書の内容に関して、登場人物になりきりながら、インタビューを行うことができる。[授業]	聞き手にとって新情報となる具体例を分かりやすく書くことができる。[授業/考査]	教科書の内容に関して ALT の先生、友人が述べることを聴き取り、再現することができる。[授業/考査]	教科書の内容に関して、自分の意見を持てるように、出来事や心情を読み取ることができる。[授業/考査]

Part1

1. Note-taking and reconstruction [Listening (Watching)]

(Words / Phrases you were able to hear)	(Reconstruction: 再構成)
	_____
	_____
	_____
	_____
	_____
	_____

2. True or False Questions [Listening or Reading]

1 (　　) Four young American girls did a research project on the person who saved many lives.
2 (　　) A high school teacher, Norman Conard found an article about Irena Sendler.
3 (　　) Irena Sendler had fought against the Nazis with other Poles and Jews.
4 (　　) Irena Sendler had kept quiet about unfair treatment for Jews.

1

3. Q&As [Reading]

4. Reading Activity (Dictation / Retelling / Shadowing)

Retelling
4: 本文の要点を踏まえた上で、８割以上の本文の内容を復元することができる。
3: 本文の要点をほとんど踏まえた上で、半分以上の本文の内容を復元することができる。
2: 本文の要点を踏まえた上で、３割以上の本文の内容を復元することができる。
1: うまく復元することができなかった。

※Reading Material about National History Day Contest

Welcome to National History Day!

What is the National History Day Contest, you ask? Each year more than half a million students just like you participate. You will choose a historical topic related to the annual theme, and then conduct primary and secondary research. You will look through libraries, archives and museums, conduct oral history interviews, and visit historic sites. After you have analyzed and interpreted your sources, and have drawn a conclusion about the significance of your topic, you will then be able to present your work in one of five ways: as a paper, an exhibit, a performance, a documentary, or a web site.

In the spring, you may enter your work into local NHD contests where it will be judged by professional educators and historians. If your work is chosen as one of the best, you will move on to your state's NHD contest. As a winner at your state NHD contest, you will be eligible to attend the Kenneth E. Behring National History Day Contest at the University of Maryland at College Park in June. This is where the best National History Day projects from across the United States, American Samoa, Guam, International Schools and Department of Defense Schools in Europe all meet and compete.

Congratulations on embarking on your National History Day journey! It is sure to be a memorable one. You never know what information you might find, or whom you may get to meet. And the skills you will learn along the way will last a lifetime.

The 2015 Kenneth E. Behring National History Day Contest will be held June 14 - 18. (Source: National History Day Contest *http://nationalhistoryday.org/Contest.htm*)

2

【資料2】CAN-DOリスト

新潟県立国際情報高等学校 ver.2.0　（CAN-DOリスト形式の学習到達目標）　20150727最新版

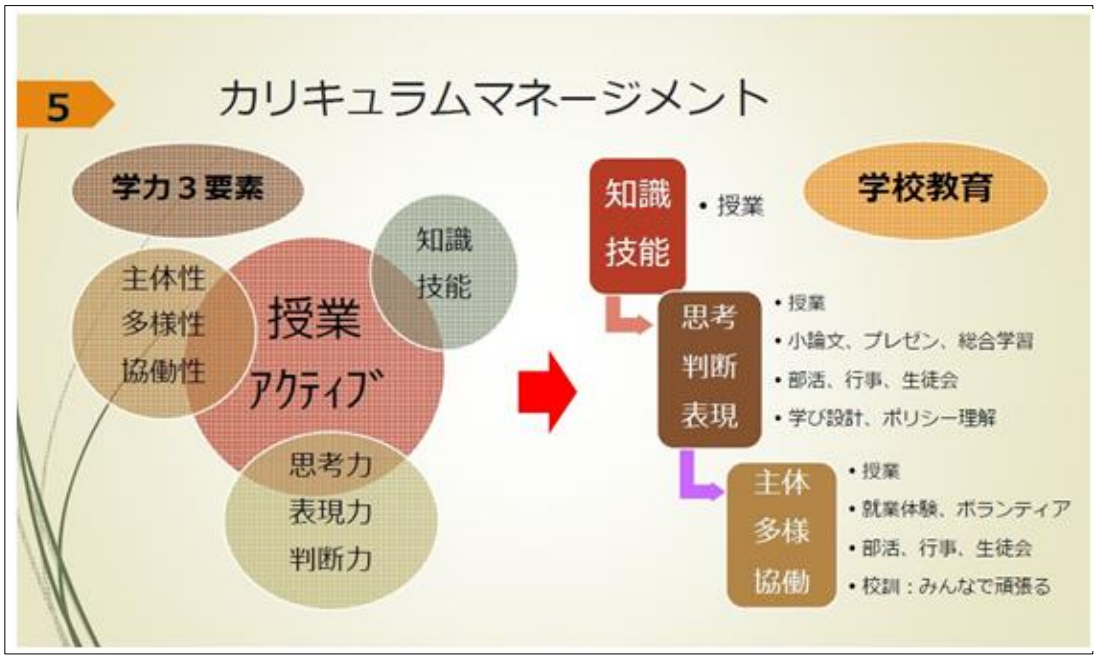
新潟県立国際情報高等学校 ver. 2. 0

KJ GRADE	到達時期（めやす）	話すこと やりとり	話すこと 発表	書くこと	聞くこと	読むこと	KJ GRADE	英検	GTEC	TOEIC	CEFR-J ver.1
Grade 10	卒業後	政治・自然・社会問題などの幅広いトピックについて、自分の考えを理由を含めて述べることができ、ディスカッションを英語で行うことができる。	数分間の準備時間があれば、アイディアをまとめながら、即興のスピーチができる。	政治・自然・社会問題などの幅広いトピックについて、結束性のあるパラグラフ構造で、意見・理由・具体例を盛り込みながらエッセイを書く・タイプすることができる。[TOEFL、英検1級など]	海外ニュースや映画・ドラマなどの映像・音声が一体になった材料であれば、主旨やストーリーをおおむね理解することができる。[CNNなど]	英字新聞を、語句を推測しながら辞書なしでも大意を把握できる。[英字新聞]	Grade 10	準１級	809	714	B2.1
Grade 9	8月～11月 3学年後期	クラスメートのプレゼンテーションを聞き、内容に関する質問ができる	ICTを用いて研究・調査を発表するプレゼンテーションができる。	調べたことをもとに、論理的な文章を書くことができる	クラスメートの研究発表を聞き、要点を理解できる。	アカデミックな英文を読み、自分の論文に引用できる文を探すことができる。	Grade 9		754	657	
Grade 8 Thesis							Grade 8		700	600	B1.2
Grade 7	4月～7月 3学年前期	他者が発表するプレゼンテーションに対して、論理構成への指摘と、自分の発表への指摘に対しての応答ができる	自分の論文を平易なプレゼンテーション形式で発表できる。	英語論文に必要な表現を、自分の論文に用いて書くことができる。	身近なテーマについて、TEDレベルのスピードと語彙レベルで話される英語を聞き、主旨をとらえることができる。	人文科学・自然科学分野の論文を読み、内容をGraphic Organizerでまとめ、説明できる。	Grade 7				
Grade 6 Debate	12月～3月 2学年後期	ディベート活動において、相手の発言に対して適切な反論をしたり、自分の意見を擁護することができる。	ディベート活動において、一方の意見について決められた型で論理的に話すことができる。	社会的な話題について、リサーチに基づき、スピーチ原稿を書くことができる。	社会的な内容について話される友人のスピーチを聞き取り、メモを取ることができる。	人文科学・自然科学分野の論文を読み、内容をGraphic Organizerでまとめることができる。	Grade 6	２級	645	544	
Grade 5	8月～11月 2学年中期	社会的な話題のトピックについて相手の発言に対して反対意見を述べることができる	相手が理解しやすい文法・語法で自分の考えを発表することができる。	賛否と問うトピックについて、自分の意見を論理的に述べることができる。	討論の場面で、友人のスピーチを聞き取り、反論するのに必要なメモを取ることができる。	人文科学・自然科学分野の文献を読み、引用に必要な情報を得ることができる。	Grade 5		591	487	B1.1
Grade 4	4月～7月 2学年前期	Teachers talk や友人のスピーチを聞きながら、情報不足の部分を疑問に思いながら聞き、質問をすることができる。また、答えることができる。	読んだり聴いたりした内容を元に、書かれていない内容や背景を考えたりリサーチしたりして補完し、発表できる。	読んだり聴いたりした内容を元に、書かれていない内容や背景を考えたりリサーチしたりして補完し、エッセイを書ける。	Teachers talk や友人のスピーチを聞きながら、情報不足の部分を疑問に思いながら聞くことができる。	教科書を読みながら、書かれていない内容や背景を推測・補完しながら読み進めることができる。	Grade 4				
Grade 3 presentation	12月～3月 1学年後期	与えられた話題に対して即座に理由とともに自分意見のを述べることができる。	あらかじめ与えられたトピックについて、問題解決の手段や提案などを具体的な理由や例を含んだ発表をすることができる。	あらかじめ与えられたトピックについて、問題解決の手段や提案などを具体的な理由や例を含んだ発表原稿を作成することができる。	クラスメイトの発表を聞き、内容を理解し、質問することができる。	評論文形式の教科書の内容を読み、内容をgraphic organizerでまとめることができる。	Grade 3		536	430	B2.2
Grade 2 Pre-Debate	8月～11月 1学年中期	教科書の内容について語る相手の意見について根拠とともに反論することができる。	教科書の内容をもとに、あるテーマに賛成・反対の立場をとり、意見を発表することができる。	テキストの内容や関連テーマについて、データに基づいた意見を書くことができる。	ある立場に立ったクラスメイトの発表を聞き、内容を理解し、メモを取ることができる。	ある立場に立って意見を述べるために教科書の内容を読み、情報不足の部分を他の英語素材を読み、引用することができる。	Grade 2	準２級			B2.1
Grade 1	4月～7月 1学年前期	教科書の内容を、ヒント語彙を与えられれば口頭で要約することができる。	3段落構成でBook Reviewを作り、スピーチの形で発表できる。	自分の身近なトピックについて、まとまりある文章を書くことができる。	教科書の内容についてALTの先生が述べる感想を聞き、主旨を聴きとる事ができる。	①読む前に見通しを立てて、本文のおおまかな要点を見つけ出すことができる。	Grade 1		481	373	
	24期に配った月もの 4月～7月 1学年前期	教科書の内容や身近なテーマについて、ヒント語彙があれば口頭で要約し、相手の話した内容にコメントすることができる。	世界で起こるできごとVisual Aidを用いてプレゼンテーション形式で発表できる。	読んだものに関連するトピックについて、100語程度のまとまりある文章を書くことができる。	教科書の内容についてNative speakerが述べる感想を聞き、主旨を聴きとる事ができる。	教科書の英文を大まかに読んでキーワードを拾い、内容の要点をつかむことができる。		３級	427	317	
Grade 0	入学前	先生から自分の中学校時代に頑張ったことや趣味等について聞かれたときに、身振り手振りを交えながら単語レベルでも英語で伝える事が出来る。	自分の中学時代を振り返って、趣味や打ち込んだことなどについて、詳細や感情を盛り込みながらスピーチができる。	自分の中学時代を振り返って、趣味や打ち込んだことなどについて、詳細や感情を盛り込みながら書くことができる。	先生の使う簡単なクラスルームEnglishを理解し、適切に活動を行うことができる。	英文を辞書を使いながら読み進めることができる。	Grade 0				A1.3

クリアできたマスから塗りつぶしていこう！

新潟県立国際情報高等学校 ver. 2. 0

【図1】 カリキュラムマネジメントの改革イメージ



【資料３】GTECスコア過年度比較（高２年次12月時点）